

・プロジェクトを始めた動機

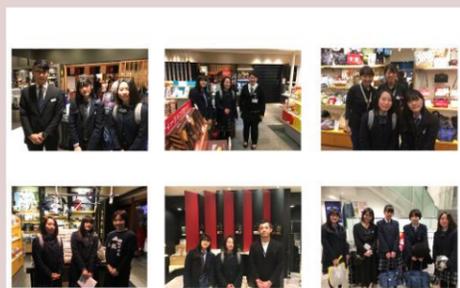
ニュースを見ていたら外国人が空港内にスーツケースを置き去りにしている問題が取り挙げられていたために実際に調べてみると多くのスーツケースが放置されていることを知った。この問題を解決しようと思った。

・現状

実際に羽田空港国際線ターミナルに行き、空港で働く職員の方々(スーツケースやお土産の販売員の方)や空港のインフォメーションスタッフの方々にインタビューをしてみたところ、ゴミ箱付近に放置されているスーツケースは週に1,2個あるかどうか、それ以外の場所にあったスーツケースは一日に1,2個程度。

月にして最低30個置き去りにされているという現状があることを教えていただいた。

計算をしてみたところ月にして最低30個置き去りにされているという現状があるということがインタビューを通して分かった。



スーツケースの中に何が一番多く入っているか？



置き去りにされている理由

- ・輸送時に壊れてしまった

・帰国時に荷物が入りきらなくなった

- ・不要なものをスーツケースごと廃棄するため
- という3つがある。

着目した問題

その中でも着目した問題点は、「帰国時に荷物が入りきらなくなった為に捨てられたスーツケース」である。置き去りになったスーツケースが空港内では大きな問題になっている。

中身の分からないスーツケースがあることで、警察が対応しなければならなくなったり、他の空港の利用者にも迷惑がかかる。

さらにインタビューを通して放置されたスーツケースは3ヵ月ほどは倉庫で管理しなければならないという管理費もかかってしまう。

・解決策

解決策として服のシェアリングを考えた。

服の容積が減れば荷物が入りきらなくて捨てられるスーツケースが減ると考えたからである。

なぜ着目したのかというと、空港で海外旅行者を中心にアンケートを取った結果、スーツケースの中身で一番容積をとっているのが服と回答している人が大半を占めていた。

しかし、服のレンタルについても空港で海外旅行者を中心にアンケートをとった結果、清潔ではないから使いたくないなどの認識がレンタルには持たれており、シェアリングへの理解を深める必要があると感じた。

ものを借りる時に重視する点は何か？



服のレンタルをしたら何を気にするか？



そのため、メディアを活用することでこの問題を発信し、より多くの人に認知してもらうために HP と Twitter を活用して服のレンタルについての理解を深めてもらう。

実際に服レンタルについて協力できるかどうかをいくつかの企業に伺った。

服については、まず GU 池袋店に伺ったが、一店舗の独断では判断できないことから協力が得ることができなかった。

そこで私たちは、NPO 法人 WE21 ジャパンという服を取り扱っている団体に着目し交渉したところ協力してもらえる方向になった。

場所については、池袋にあるメトロポリタンホテルに場所を提供していただけるか伺ったが、プロジェクトが不明確だったため協力を得られなかったが、いくつかのアドバイスをいただいた。

そのため、メディアを活用することでこの問題を発信し、より多くの人に認知してもらうために HP と Twitter を活用して服レンタルについての理解を深めてもらう。

・プロジェクトの方法

① 服レンタルの方法について

場所については訪日観光客が多く訪れると予想され、空港から直接ホテルへ向かうバスがあるホテルを想定しているが詳細は決まっていない。

服については、NPO 法人である WE21 ジャパンに協力していただく。

WE21 ジャパンが運営しているショップで売れ残った一部の服をお借りして、服のレンタルを行う。

ホームページから注文を受け、WE21 ジャパンと連携を取り注文を受けた服を WE21 ジャパンからホテルに届ける。

返却の際は、ホテルから WE21 ジャパンへ服を届ける。



② 利益循環について

羽田空港で服シェアリングについてアンケートを行った結果、サービスを利用したいと解答した約 1.8%がアジア圏からの訪日観光客であった。

予期せぬ気候の変化によるコートやアウターなどの衣服の購入を防ぐため、日本と気候の差があるアジア圏の温暖地域からの方に焦点を当て、日本の冬にあたる11月から2月(日本政府観光局より)に訪日した統計を利用した。またその際、アンケートの結果を考慮し、訪日観光客のうち羽田空港を利用した方の割合を使用した。

その結果、このサービスを利用すると考えられる訪日観光客の方は1か月に約1,841人、1日に59人見込まれた。

初月の利益は認知度などの観点から少なく見込まれるため、1日に15人と仮定した。また、衣服のクリーニング代や運搬費を考慮し、コート類の貸出料金を2,000円と設定した。その結果、初月で得られる利益は29,693円となった。

次月以降、利用者数が倍増するとして同様に計算し、5か月以内には仮定した人数である59人を上回るため、

黒字になる。得られた利益はすべて WE21ジャパンに寄付する。



・持続、継続の可能性

① 資源の確保について

WE21 ジャパンには一年間に約 90 万枚届き、おおよそ 40 万～50 万枚の服が使用できる。シェアリングに使用する服は、その中から売れ残った服を使用するため、資源を確保することができると言える。

さらに、日本政府観光局によると訪日観光客の数は 2003 年と 2017 年を比べると約 5 倍に増えている。今後も増える見込みがあるために、服のシェアリングを利用する需要が維持できると言える。

② 引き継ぎについて

序盤は、今回ご協力していただく WE21 ジャパンとプラットフォームとなるホテルとの仲介役になり運営していく。最終的には、このプロジェクトを委託する予定である。委託した後の私たち自身の活動は、Twitter や HP などのメディアを活用し、スーツケース問題や服のシェアリングについての情報を発信していく。

・プロジェクトチームの成果、社会的インパクト

このプロジェクトを実行することで特に訪日観光客の方々と空港職員の方々にメリットをもたらすことができる。外国人観光客の場合は、荷物の少ない状態で渡航することができる。お土産などに場所をあてることができる。

更に、予期せぬ気候の変化による衣類の購入を避けることができる。

例えば、温暖な地域から冬場に来日した時に、コートなどのアウター類が必要になるが、このサービスを利用することで、購入する必要がなくなる。

空港職員の方々にとって、回収する手間、管理する場所・費用を省くことができる。

このプロジェクトを通して、スーツケースの置き去りがあるという問題を多くの人に知ってもらいたい。さらにその

上で、訪日観光客の方が訪問した時、快適だったと思ってもらいたい。

・担当

大岩…企画・総括・デザイン

坂本…GU との連携・アンケート作成と集計

井上…空港との連携

金野…メトロポリタンホテル・WE21 ジャパンとの連携

私たちのプロジェクトと SDGs の関係性について



メディアの活用



「RENTAL-CLOTHES」
ホームページ QR コード

Twitter: @CHS_Clothes

豊島区広報誌とっぴい 4 月号掲載予定

RENTAL CLOTHES

C.H.S



Masaki Ooiwa
Asahi Konno
Miyuu Sakamoto
Kurumi Inoue

